

アグリツーリズムで復興の息吹を感じる

東日本大震災からの農業復興を支援するため平成25年7月に建てられた「岩沼みんなの家」。

この施設は東京のIT企業インフォコムが管理し、6次産業化や農業へのIT活用など、農業発展のための事業や地域交流イベントが行われている。

毎週土、日曜日は「みんなの直売」を開催。震災前に開かれていた「かあちゃん広場」が復活したもので、近隣の農家のお母さんたちが作る新鮮野菜や惣菜などを販売している。

毎日営業の「みんなのカフェ」では、岩沼産の農作物を使ったジェラートや薬膳クッキー、ホットドッグなどが味わえる。ジェラートは、岩沼市のふるさと納税の返礼品の1つにもなっている。



施設の利用拡大に汗を流す管理人の山田正幸さんは「直売野菜をふんだんに使った月曜日数量限定のランチメニューも好評」と語る。

「岩沼みんなの家」は多目的なスペースとして、地域みんなが集うコミュニティ拠点や被災地の復興の様子を発信する情報拠点としての働きにも期待がかかる。

問い合わせは、岩沼みんなの家(ホームページ・<http://minnanoie-iwanuma-infocom.com/>)まで。

【記事提供：岩沼市農業委員会】